

祝バンクーバー冬季

オリンピック & パラリンピック 出場

カナダのバンクーバーで開催される冬季五輪男子モーグル代表に附田雄剛、遠藤尚の2選手が決定。同じく冬季パラ五輪男子チェアスキー代表に鈴木猛史選手が決定。

猪苗代町から3人の選手が五輪の舞台に挑むということで、町中に応援ムードが高まっています。

1月25日、帰郷した遠藤尚選手は母校の猪苗代高校や町役場を訪れ、関係者に初となる五輪出場を報告し、激励を受けました。

1月27日には、ホテルリステル猪苗代で附田雄剛選手の壮行会が開かれ、附田選手から五輪への意気込みが語られました。

2月14日には、町農村環境改善センターで鈴木猛史選手の壮行会が開かれる予定です。五輪への出場を前に意気込みを語った3選手のインタビューを紹介します。

3選手には、町からの激励金として津金町長から5万円が贈られました。



3人の活躍を願って役場に掲げられた懸垂幕。町を挙げて応援します。選手の皆さん頑張ってください。

遠藤 尚 Sho Endo 忍建設スキー部所属 (猪苗代高卒)

Profile えんどう・しょう
町内渋谷出身 弱冠19歳で初の五輪代表の座をつかんだ日本モーグル界次代のエース



遠藤選手インタビュー
— 初の五輪出場ですが。
「本当にほっとしている。決まっただけには実感がわかなかつたが、今はやっと夢のスタートラインに立ったと思っっている」
— 昨年の世界選手権には出場できなかったが。
「本当に悔しくて、五輪には絶対出場しようと思っていた。重圧で押しつぶされそうになることもあったが、この1年で精神的にも成長できたと思う」
— 現在の調子は。
「スピードとエアの完成度では世界にも引けを取らないと思っっている。ヤンネコーチにも良くなっていると言われるし、感覚と体の動きが近くなってきた」
— 五輪コースの印象は。
「バンクーバーは難しくはないコース。それだけにミスは許されない。課題のターンに気をつけて臨みたい」
— 五輪の目標は。
「表彰台を目指して恥ずかしくない滑りをし、猪苗代に恩返しをしたい。また、目標でもあり、兄のように慕っている上野修さんがけがで出場できないので、修さんの分まで頑張りたい。五輪には上野修さんのシグネチャーモデルのウェアを着て出場する。2人分の思いを背負って頑張りたい」

初の五輪出場が決まった遠藤尚選手は1月25日、母校猪苗代高校や町役場を訪れ、五輪の出場を報告しました。
猪苗代高校では激励金の贈呈式が執り行われ、同窓会・後援会を代表して小林重希後援会長が5万円を、スキー部OB有志を代表して堀悟同窓会長が2万円を贈りました。
また、高校時代の担任だった北原利江教諭に再会し「五輪でカッコいい姿を見せて」と激励を受けた遠藤選手は「恥ずかしくない滑りで猪苗代に貢献したい。表彰台を狙います」と握手を交わしました。

附田 雄剛 Yugo Tsukita

チームリステル所属

Profile つきた・ゆうご
北海道出身 98年の長野、02年のソルトレイク、06年のトリノと3度の五輪を経験した日本モーグル界の大黒柱。4度目の出場となる五輪で初のメダルを狙う



附田雄剛選手の壮行会は1月27日、ホテルリステル猪苗代で開かれました。会場にはリステルの社員など約80人が詰め掛け、附田選手を激励しました。

附田選手インタビュー

— 4度目の五輪代表ですが。
「スキーが好きで続けてきたが、それだけでは続けてこれなかった。練習

習場所や経済的なことなど、リステルのサポートがあつて競技に打ち込むことができた」
— 現在の調子は。
「シーズン当初は非常にいい状態でしたが、左かかとを痛めて、ここ数戦のW杯では納得のいく滑りができていなかった。ただ、オフが順調すぎたために、気持ちにゆとりがありすぎて逆に不安だった。最終合宿で集中を高めればいい方向に生かせると思う」
— 五輪での目標と応援する県民にメッセージを。
「リステルの社員として恥ずかしくない立派な滑りをしたい。高野ヘッドコーチと元世界チャンピオンのヤンネ・ラハテラコーチのもと、やってきた練習に間違いはない。やってきたことを本番で出せば必ず結果はついてくると信じています」
— 五輪という特別な舞台なので、自分も含めたすべての選手がベストの滑りをして、その中で結果がついてきたら最高だと思っています。
— 五輪の後には猪苗代でW杯があります。上村愛子選手も来るので(笑) 皆さんぜひ見に来てください」

鈴木 猛史 Takeshi Suzuki

駿河台大スキー部所属
(猪苗代高卒)

Profile すずき・たけし
町内蟹沢出身 06年のトリノに続き2度目のパラ五輪出場
前回は滑走4位 回転12位



長野県の菅平で日本代表チームの合宿に参加している鈴木猛史選手にインタビュー。
— 2度目となるパラリンピック出場についてどう感じているか。
「前は初めてのパラリンピックで、パラリンピックという大会がどういう規模の大会なのかも分からなかった。代表に決定してから大会が終わるまで、ずっと緊張していました」
— 今回の、初めての時のような緊張がなく、余裕をもって大会に参加できるかなと思っっています。パラリンピックというのは4年に1度なので、レースが始まってしまつと、きつと緊張してしまつと思っいます。緊張に負けないよう、自分の滑りをしていきたいです」
— 現在の調子は。
「体調の方は調子がいいです。滑りの方はワールドカップ期間中にすごく悩んでいました。今までできた滑りが、いきなりできなくなつてしまい、レースで結果が残せずストレスがたまっていました。ワールドカップ終了と同時に、上手く滑れない原因について解決しました。現在は調子を取り戻し、練習を頑張っています」
— パラリンピックの抱負は。
「前回のトリノでは、メダルよりも楽しく滑ることを優先に考えていました。今回はメダルにこだわっていききたいと思っいます。でも、スキーを楽しむ、大会を楽しむというのは忘れないようにしていきたいですね」
— 町民の皆さんにメッセージを。
「今回が2度目のパラリンピックですが、出場できるのは、皆さんの応援があったからだと思っいます。本当にありがたうございいます。前回のトリノでは、メダルを持って帰れませんでした。今回は猪苗代に、メダルを持ち帰ってきたいと思っいます。全力で頑張つてきますので、これから応援よろしくお願っいます」